磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　二行五十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

聖者と田舍娘

かわち生

聖者とは佛に奉仕する僧侶にして戒律の嚴格なる修道の行者である、田舍娘は初めて戀を知つた可憐の女である、五慾を去つた佛弟子に戀したとて永遠に酬ひらるべき筈はない、花の如く優美に鳥の如くに樂しく人生を歌ふべかりし乙女は剎那の戀に生き剎那の戀に死したのである、畸人傳の中に書かれた記事には簡單なれど吾等青年にとりては性學の奧義の解釋が書かれてあるから有かたいと思ふ。

德川幕府の終りの頃天下は太平である、半田銀山麓に桑折町と言ふ商業繁昌の街がある、德川幕府の財源であつた銀貨は無限に堀された黄金花咲く陸奧の國と歌はれたも無理もない、其の桑折の街に淨土宗の寺がある衆多の佛弟子は清淨な白衣を着て手に鐵鉢を携へて、近村の農家の軒毎に罪障消滅の讀經を唱して行乞するのである。

修業のためには樹下石上に眠るもよし、供養のためとて招かるれば貴賤貧富の差別を問はず佛縁であるから其の求むる家に宿るのである。

聖者は托鉢の折に富者に招かれて其家に宿れり其家に良き娘ありき、聖者の姿に見惚れた而して煩惱の娘となつた。

聖者は不眠の行を修めてゐる、結伽趺座して終夜眠らず唱名念佛を口にしてゐらるゝので娘は言寄る術がない、終夜焔々の情火を燃やしたのである。

娘は一夜の間に戀に狂ふた病人となつた、昨夜の自分の行爲を恥ることゝせず口ばしりてゐたりの家に告げ知らしたのである。聖者は煩惱外道の女を哀れの者と思ふた、戀の炎にやきく[illegible]れ[illegible]滅びんとする救ふ[illegible]り[illegible]思ふた

聖者は尊い佛の慈悲を敎へ惱める女を救ふたのである、女は終生他に嫁しないで清淨不犯の生涯を遂げたのである。

田舍娘は勇者である、愛して良いと信じたから愛したのである。愛したが故に女の生命とも言ふべき黑髮を捨てたのである、信實の戀のために世を捨てたのである。田舍娘は刹那の戀を捨てゝ永遠の戀に生きたのであるから戀[illegible]勝利[illegible]は石城郡の郡中に於て此娘のことであらう。榮光の冠はこの無名の田舍娘の手に歸したことは不思議である自己の戀を偽らざりし其勇氣こそこの勝利を得せしめ武器[illegible]あるの[illegible]あら、娘は永遠の戀を掴んだのである。

聖者とは菩薩の再來さまで尊崇された無能上人である、無能寺の法燈は今も光明照りかゞやいてゐるのである、無能上人の生きた人格の光りは日本の國の佛敎のつゞく限り聖者の中の聖者として尊敬さるゝであらう、純なる田舍娘の戀は聖なる戀にあると思ふ、何故ならば佛陀に戀したのであるから。

（終り）

短歌

佐藤清長

—（傷心）—

君去らば
何處に君の俤を
[illegible]び出づべき我遣瀨なさ

〜淚〜

川邊に語る人二人
見つめて悟る吾の愚かさ

しみじみと
心癒くまで語りたし
吾に飽なき名殘なりなば

夢なれば
かくまで深く吾が胸に
刻じものな懶な戀

幽かなる世になど望み
あるべきと

四辻に立ちて暫しは
思ひど迷ふ恩愛の道

惑ふかな
何れの道も暗なるがゆい

今日の消え
明日の來るは知りたれど
知るに才なき君　御胸を

陽炎の
如きに似たる戀なれど
など忘れじな君の愛撫を

これだけよ
別れに捧ぐ片ごひの
君が幸福祈りつゝ吾れ

※……※
明日の吉凶
※……※

舊曆　七月二九日
新曆　九月十二日

▲一白　着々と實行に取掛かるべし必ずや次第境大す
▲二黑　外に在りては不快を招き易き日神詣でには吉
▲三碧　本分に專心なる時は自然の通達を見るべし
▲四綠　枝葉に捉はれず大体を守りて進退すべき日
▲五黄　一苦勞あるも小さき事と雖も油斷すべからず
▲六白　頴鋒を收め內に在りて英氣を養ふべきとき
▲七赤　打ちつ打たれつ應接に暇なき變化のある日
▲八白　奢りは我が身を削り食らふに同じ質素が第一
▲九紫　眼前神佛の慈光に浴する樣な心地ある吉日

講談

幕末秘帖　狂怒亂心

（38）

渡邊默禪作
宮野歌春畫

胸につかゐしゐた哀愁も可愛い娘の笑顔を見るとー時はモルヒネを注射したやうに心痛を忘れることが出來たのであるが、それも長くは保たずしてふつさ泛んだ今日の記憶へ乘冠さる如く、きら〜〜と淚の虫が混み上げて來た。

「た君、駄目だ」と解らぬことを言つて、喫みかけてゐた煙管を自暴に疊へ投り出して、そして首をがつくりの腕組しながら溜息を吐いてゐた。

その煙管から吸殼が轉がり出してほ！と煙があがる。のをた君が見止めて

「あら、肝癪を起してるよ可厭な爺さんだわねね」

と慌てゝそれを火箸につまんで

「駄目だつて、何がさ？那が駄目なの」と火鉢へ落した

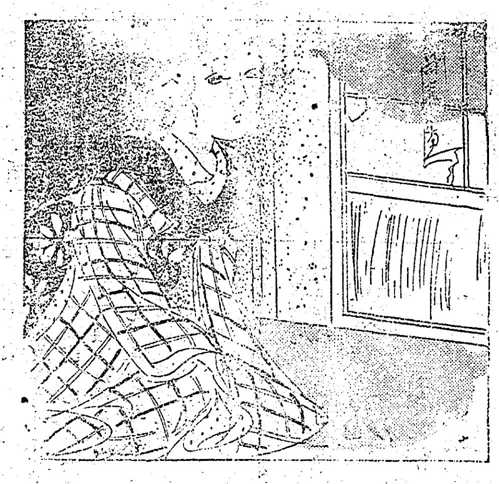
「うむ—」と音五郎はうなつて

「いや人間の命くらゐもろい物は無い、朝に冬瓜が何とやらして夕に白骨が躍り出したつてえな事を能く坊主が言ふが考へて見ると莫迦々々しいや、此の世のなかは……ア、詰らねえ〜〜」

と舌打する。

た君は何の事やら更に解らぬ。不審らしくみはつた瞳を親の額に据ゑて默つて聞いてゐた。

「た君」とふつと顏をあげ



「忌々しいから止しッちめね、裁縫なんぞ爲るこつて無ね、いゝから思ふさま遊べッ、芝居でも寄席じも相撲も大弓じも好きな所へ行けッ、女郎買でも博賭打でゐ勝手な行爲をしろッこんな詰らねえ浮世にたくそくしてるのは馬鹿だッ、遊べ〜〜可いッてえことよ親が許すんだ遠慮するなよ解つたか、たい」

一人呑込の氣焔を吐く。

やがては死水を取つて貰ふべく期待してゐたいとしい花聟、それをむざ〜〜奪ひ去つてなぶり殺しにさせた無慘の社會—當の仇は新徵組であるが、その新徵組なるものを生存させて跋扈させて横暴なる權力を與へ、爲すがまゝに任せて問ふ所ないのは取も直さず今の社會である、社會の缺點である、階級制度の罪である。武士的專權の壓迫である—それを怨むの不平やら人生の常なきを儚なむ悲哀やらが感情一遍の此人の胸を搔亂して、絶望と孤憤とをなひ交せた怪しの言を吐かせたのであるが、その言葉の裡にも娘を慰めようと努める眞情が加味されてあるのだ。

がお君には通じない、寧ろ疑惑と恐怖とを倍させるだけであつた。

「え？何を言つてるの」と首を突出すやうにして

「何誰が死了なつたの、爺さん、アノ深川の老婆さん

と問ひかけて

「老婆さんなら最う惜しいことはないわ、今年八十八ちやアありませんか」

とくちもとで笑つてゐる

「インエ、そんなこッちゃア無ね」と首を掉つて

「た君、お前喫驚しちやア不可ねねせ」

「誰が喫驚するもんかね生きてゐる者なら一度は死ぬに定つてるわ」

存外平氣でゐる。その顏を凝乎と覗詰めて

「む、そう諦めて呉れりやア文句は無ね、た君、實アな」

と言出し難さうに口をぐ〜させてゐたが

「梅が死んだんだッ」と投出したやうな聲

「ね、梅さんが？」と君はぎよつとしたが其下から笑ひ出して

「オホ、、、可厭だよ、爺さん、そんな事を云つてからかうと思つて—た止しよ延喜でもない、誰が那麼おどかしに乘るもんか、可厭だよ、爺さん、オホ、、、こ

（廣告）

スター好　中形
粋な　手中
着尺モスリン
本場カヤ
平　龜田屋
電五七

痔の最高内服薬　ダイサン錠
鼻のクスリ　チクノール錠
平町五丁目角
山野邊薬局

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

平町田町
高久病院
電話五一三番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

開店御披露
氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々是非一度御來店の上御批評を經營は大塚肉店故原料豊富、是非一度御試食の程を
女給數名入用
カフエー幸樂
平町六丁目　電五三九番

ホシ胃腸薬
胃腸　氣癖　藥
星製胃腸藥
ホシ胃腸藥

◆御期待の名編遂大公開◆
大空中戰
つばさ
血涙悲壯
賜御天臺覽榮　各國皇帝元首各宮殿下
パラマウント社
本年度超特作映畫
主演　クララ　ボー孃
チャールス、ロヂャース氏
陸軍省
海軍省
文部省
推賞　激讃
全編悉く熱と力もて貫れ血と涙もて彩らるゝ一大文字、是を見ずして何人か遂に映畫を語るを許されん……一死國難に殉ずる熱血男兒、戀をいけにえに奮鬪する美少女、戰禍を地上より拂わんとする偉大……精神脈々たる大傑作……巨史
報知新聞連載　吉川英治原作
第三回　江戸三國誌
◇全國協定打破◇
入場料特に普通
土日曜學生デー
十三日より
高級常設　平館
電四六六

教授
裁縫　奥田式及び水引細工
華道　古遠州生花、小原流盛花
茶の湯　裏千家
平町白銀町（平劇場前）
高橋光春
電話六三八番

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

外科新設
外科專門　部長　藤本順
診療開始
産科
婦人科　院長　木村寅次郎
從前通り診療
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

ヒゲタ醬油
宮内省御用達
九升樽詰
二リットル壜詰
銚子醬油株式會社

特約店
平町田町
廣瀨支店
電話五四番

磐城病院改稱
市原病院
平町田町（電話一一四番）
內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋毒　市原三三男

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣
並に部分品提供
當分の間　奉仕的破格値段
三球セット取付共
A　百貳拾五圓
B　百圓
C　七拾圓
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話四二八番

侮辱も甚だしいと 女給連怒り出す

花柳病豫防實施で 警察署手古摺る

花柳病豫防法案が愈々月一日から實施されて、藝妓、酌婦、カフエーの女給等にまで從來娼妓に對して行つてゐた檢黴を行ふ事となつたカフエーの女給連は柳眉を逆立て、「我々は娼妓でないから檢黴される必要がない、そしてまた妾達にそんな事をするのは妾達を淫賣婦だとして取扱ふ警察の考へなのだらうから、そんならそれで此方にも考へがある一住商賣をしてゐない、一般家庭の人達だつて花柳病にかゝつてゐる人がどんなに多いか判らないで妾達をだけ取締つたとて何になるものか、それに自分の事だもの、妾達はすぐにお醫者の手當をうけるからいらぬ必配をされたくないものだ」と當るべからざる勢ひであるが殊にカフエーの女給達はこんな侮辱耐へられぬとばかりやめてしまふ者が續出に、近頃は料理などよりもペーパーのいゝ女給に商賣を立てるカフエー社界は此處に一大恐慌を來し、これは一大事とばかり主人連が集まつて此規則の實施を待つて貰ひませうとばかり運動を開始した模樣で各署各様の惱みがある樣である

吉田氏除幕

十六日湯本町で

石城郡地方に於ける漢籍の大家として著聞する石城郡湯本町大字關船故吉田敦和氏の薫陶を受けた平町山崎與三郎氏その他有志は先年來同氏の謝恩碑建設を計劃中であつたが此程いよ〳〵竣工したので來る十六日（日曜）をトし午前十時から前記吉田塾に程近き諏訪神社境內において簡素な除幕式を擧行すると

連日の酷暑續きに 今度は雨欲しや

降雨は當分望めないと 測候所の觀測

石城地方は土用中連日の降雨に惱まされてゐたが其後晴れ出した天候は一向の雨さいなく片照り片降りの天候に農民等は畑面を作つてゐる、小名濱測候所では九日朝鮮にあつた低氣壓は北進、小笠原方面にあつた低氣壓の日本海進入で久方振りで降雨をもたらすものと見て九日夜より十日にかけて雨の豫報をかゝげ雨を望む農村方面をして大いに望みを囑せしむるところあつたが當はづれて十日は片雲だもない晴ぶり當にしてゐた連中を失望させるところ甚だしかつたが測候所の辯による「と九日朝鮮にあつた低氣壓は觀測を裏切つて遠く海州方面に向ひ本州を横切り日本に入る觀測だつた小笠原附近の低氣壓はそのまゝ停滯してゐるため豫報ははづれてしまつたわけだかこの分だと小笠原のものが豫定の進路をとらない限り雨はちよつと望まれない」と云ふので頗るもつてたよりない話である

石城舊名偉人傳（十）

忠誠一貫君國に奉した 軍神大越兼吉

△大越兼吉中佐　內郷村大字白水六十七番地大越重三郎氏の三男にして慶應三年七月廿七日該地に生る、幼より陸軍に志し拮据勉勵大いに得る所あり明治十八年二月二十九日陸軍教導團に入り、翌年六月廿五日歩兵科を卒業し、仙臺鎮臺附歩兵二等軍曹となり二十年七月一等軍曹に昇進し十二月一日士官候補生にして歩兵第四聯隊に入り翌年十一月一日士官學校に入學、廿三年七月廿六日卒業せり、翌年三月廿六日陸軍步兵少尉に任せらる、廿五年二月三日正八位に敍せらる、明治廿七年日清の風雲急に迫り遂に干才に訴ふるに至る、尋で動員令下り同年十一月十一日仙臺を發すこれより先き七日中尉に昇進、十二月八日從七位に敍せらる、廿八年一月十日第二軍に屬して宇品港を發す而して威海衞附近にて戰鬪し玉皇廊の占領に殊功を奏し更に十二月二日大連灣より乘船して臺灣に向ひ又た各地に轉戰、十月廿三日步兵第三旅團副官に補せられ同二十九年四月安平より凱旋五月敍功五級金鵄勳章六等瑞寶章下賜せらる、三十年八月三日仙臺地方幼年學校生徒監に補せらる、翌年八月九日步兵大尉に昇進十日正七位に敍せらる、三十五年二月廿五日敎育總監部出仕仰付けられ翌年十一月十日從六位に敍せらる、三十六年五月十六日勳五等敍し瑞寶章を授けらる、三十七年日露の國交斷絕するや三月六日第二軍管理部副官を命せられ、三月十八日本隊に先立ちて東京を發し五月六日淸國盛京省發石に上陸二十五日、廿六日金州並に南山の戰鬪に參與し六月十四日、十五日得利寺附近の戰鬪に參與し七月十日陸軍步兵少佐に進み二十四日、廿五日大石橋附近の戰鬪に八月三日海城に、廿七日、廿八日鞍山店附近、三十日、卅一日首山堡附近に九月二日、三日、四日に至る遼陽附近の戰鬪に參加して功あり、斷くて同年九月七日第六聯隊第二大隊長（仰付けらる、十月十一日乃至十六日沙河附近の合戰並に翌三十八年一月廿六日乃至廿八日の黑溝臺附近の合戰に參與す、沙河の戰たるや少佐はその第二大隊を率ゐて猛進し、苦戰奮鬪遂に感狀を與へられ、越いて同年二月七日李官堡の激戰に優勢なる敵を包圍に我が生存者甚だ少く、聯隊長は既に二彈を浴びて指揮を部下に委ね、少佐及び第三大隊長も以前既に傷を將校の健在九名に過ぎす傳令者は何れも途中に倒れて旅團長（李官堡の西方略二十四李官堡に在り）との交通全く絕ゆ彈藥亦た乏しく瓦礫木片等を投じてさきに敵襲を支ふるに至れり、少佐は我軍の苦戰を見るに忍びず萬死に一生を賭して自ら進んで聯隊長に代り親しく旅團長に面して此の危急を救はんと圍を突きて李官堡に出でし百米突若干にして數彈を浴び立つこと能はず神色自若携帶の圖書は寸斷し書類の御詔勅の寫しは畏れ多しと嚥み込み奉り旅團長に述懷書を認め之れを一兵卒に托して從容擧銃を以て自決せられぬ、故植竹源太郎氏等の主唱により今平町縣社子鍬倉神社境內に銅像建立す

平署軍敗る

警官對抗試合

双葉郡長塚、新山、廣野、久の濱の各劍士對平警察署の劍道試合は八日午後二時から平署演武場に於て土屋師範審判の下に擧行十七對十六で平署の負に歸し終つてオール平劍士對双葉郡劍士の試合に移り十八對十でオール平組は優勝したが何れも火花を散らす接戰を演じた

七大炭礦が共力し 輸入炭に對抗

一トン二錢宛を據金し 共同販賣の計畫

常磐地方大倉、磐城、三井入山、古河、大日本、福島の七大炭礦會社でかねてから各社の販賣炭について協定を實行してゐるが更にこれが協定の基礎を鞏固にするため、共通資金の積立をもくろみ、いよ〳〵今月から各社送炭に對し一噸當り二錢の基金を徵收することに內定し、近く協議の上實行することになつたそしてこの共通資金は專らダンピングに備へるため、また無煙炭廣告費用等の諸經費に充てるもので行く〳〵は輸入炭並に他の內地炭に對抗するため各社結束して共同販賣する一大勢力を組織する場合の資金に當てようとの目的であつてさらに右徵收金は炭價回復の曉二錢から十錢に引き上げる豫定であるとも傳へられる、尙ほ九月中における加盟各社の送炭豫定高は合計十七萬一千噸內外である

閑散に終つた 夏の植田驛

發着貨物減ず

常磐線植田驛八月中の乘降人員は乘一萬四千百三十八人降一萬三千八百四十三人この金額五千四百四十二圓三十三錢で昨年の同月と比較すれば乘において九百廿九人降において五百七人收入において四百七十六圓の減を示してゐるが小荷物は反對に三十圓五十三錢の增加を見てゐるこれは今年の鮑漁が多かつた關係である更に貨物の成績は發送二千八百十五噸到着三百二十二噸でこれ又發が四十六噸着が百十三噸の減である尤もその減じた原因は炭界の不况で着の減は毎夏期中綴驛倉庫より運搬されてゐた白煉瓦が今年はなかつた關係もある

買馴れ五十三圓 更に尻高の傾向

去年に倍の取扱ひ高 四倉市場の活況

石城郡四倉町四倉繭市場は開場以來十日迄秋繭取引高は一萬一千四百二十九貫其の金額五萬九千六百三十六圓七十三錢で昨年の秋繭取引高に比する時は實に倍額以上の好成績であつた而して秋繭出廻り最盛期は既に終り昨今では毎日漸く四五百貫の出廻りに過ぎないが最高値は五十七圓二十錢最底値は四十五圓六十錢で均五十三圓臺と云ふ尻高を唱へて居るが近く晩秋蠶の出廻期に直面して居るので市場は引續き緊張して取引に當る方針であると

女の命定め

お産の數々に就て

（實川醫學士の談）

「お産は女の命定め」などゝ云はれてゐるのですから、お産とさへいつたら生死の岐路に立つ恐怖心にとらはれ十ケ月間オド〳〵と過ごす婦人もあり、泰然とかまへて猫の子を生むやうな氣持で心用意さへ怠げてゐる婦人もあります、しかしお産に生み習ひなしで、たとへ第一、第二が安産でも安心しきつて非常時の心用意のない様でもこまります、必ず安産の出來る秘訣を傳授いたしませう、母兒共健康で異狀のない場合は百人中八十五人は安産です、生理的に難産となる場合は今日の醫學では察知も豫防も出來るのですから、病氣の自覺がなくても妊娠と知つたら一應は醫師の診察をうけた方がよろしいと存じます、疾患異狀姙娠を早く見出だす事によつて難産を安産に導くことが出來るのですから、もう一つは姙娠の攝生法を心得てゐねばなりません飽食、便通、運動、腹部の保溫等を守ると共に、精神を安靜に所謂胎教の爲めにも身心共に健全であることが安産の基であることも忘れてはなりません、お産に禁物は恐怖心で男子の出陣にもたとへられてゐる大事業ですから相當の覺悟は必要ですが、何も恐れ慌てる必要はありません、一つの信仰と確信をもつて惡い豫感を決して抱かぬこと、何時でもいざ鎌倉の場合に萬遺漏のない備へをしておき、分娩開始と同時に取亂す事なく、怖るゝことなく、極めて嚴肅な氣持で安心して床に就くことが安産の秘訣です、産婆は絶對に信頼される人を頼み萬一の時來て貰ふ産科醫をきめておいたなら、お産といつても何も恐れることはないのです、不用意の爲めに女性のみに限られた天與の大業を果せないことのないやうに注意したいものです、左に準備しておくべき器具類をあげて置きませう

生兒の産衣類、襁褓、産婦の寢卷（夏は晒木綿、浴衣など、冬は綿ネル）敷布二枚、ゴム布又は油紙二枚、腰布團二枚、洗面器二ツ、脫脂綿、ガーゼ、晒木綿、ブドー酒、差込便器、アルコール、リゾール、タライ、タオル

道路使用陳情

長橋町有志から

平、湯本間の軌道を平町南町裏新川に伴ふて新川町まで延長すべく日本鐵道興業株式會社では過般來運動中の旨既報したが平町長橋町有志七名は十一日平町役場に伏見町長を訪へ道路使用について陳情した

神谷農事協議

神谷村農事實行組合總會は十日午前十時より同村役場內に於て開會諸般の事項を打合せたが縣神尾農林技師臨席した

乘降客數も金額も 貨物も共に減少

雨に祟られた去月中の 平驛の取扱現勢

平驛に於ける去る八月中の乘客及び貨物の動態を調査するに乘客は七萬七千六百四十人で昨年同月に比し六千八百八十六人、降者は七萬四千八百四十四人、昨年同月に比し六千五百六十七人の減少で之れが收入は二萬九千四百九十六圓で前年同月に比し三千二百三十九圓の減少を示したが原因は今夏中雨天續きの爲め避暑客が尠なかつたのに依り尙貨物の發送は五千二百十八噸で前年同月に比し四百八十一噸減じ到着は一萬五千百十一噸で前年同月に比して八百三十一噸の增加を示したが收入は七千四百五十六圓で前年同月に比して一千八百七十一圓の減少を示した

衆議院の 分野

政友絶對多數

民政黨の動搖のため前五十四議會當時政友會は二百二十二名民政黨は二百十四名で朝野兩黨の勢力殆ど相伯仲してゐたが其後新黨俱樂部の組織に依り兩黨の間には三十名以上の開きを見るに至り現在に於ける衆議院の分野は左の通りである

政友會—二百十八名

民政黨—百八十七名

新黨俱樂部—廿六名

（九日入黨、宮崎縣選出二見甚郷氏をも加へる）

無産各派—八名

明政會—五名

一新會—四名

實同會—三名

革新俱樂部—一名

無所屬—十名

計　四百六十二名

外に缺員四名

二人賭博犯

平署に捕はる

平町材木町一番地池上久吉（五三）同町紺屋町三四番地寺田甚五右門（四四）の兩名は十日午後一時頃前記池上方に於て花合賭博開帳中平署に逮捕された

御即位記念事業に 教育參考書を出版

地方有志の意見を纒め 大和田氏の計劃

平町私立磐城蒞賢學舍長大和田豊吉氏は氏畢生の事業である同學舍が創立十五週年に相當したので之れを記念する爲めと今秋擧行される御即位式を祝賀する爲め左の三問に對し各階級を網羅する有志より意見を徵し記念出版をなす方針を立て原稿編集中の處大体纏まつたので來る十五日頃締切りおそくも十月末日までに出版の手筈であるが急務中の急務とされる教育問題につき地方有志の意見を編纂した此の種出版は極めて意義あるものとして一般から期待されてゐる

一、貴下が現在の敎育に慊らず斯うして欲しいと希望せらるゝ諸點は如何なる點でありますか其中の主なるものを御指示願ひたい

二、貴下が我が國民に實行を望まるゝ諸點は如何なる點にありますか御示しを願ひたい

三、貴下が愛讀せられ又國民に購讀を希望せらるゝ書籍は何々でありますか五點以下御敎へを願ひたい

罵られて告訴

斧松トメを相手に

石城郡鹿村大字下倉持字萬谷農國井斧松（五九）は七日午後五時頃同村下倉持字木羽谷作鈴木トメに對し貴樣はたれの家から籾を盜んだらうと罵つたので身におぼえのないトメは大に憤慨し同村駐在所にこの旨訴へ出でたので八日平署では關係者を召喚し鯨岡司法主任係りで嚴重取調べを行つてゐる

唖者の惡事

實は前科十犯

平驛待合室を九日午後三時半ころ徘徊中の男を平署刑事が引致取調べたところ唖者で本籍不詳住所不定の無職窃盜前科十犯を有する太田豊（四九）とて東京府下中野町煎餅屋に雇はれ中隣家の加納某方から現金百八十圓を窃取逃走してきたことが判明し一先づ拘留處分に附し嚴重取調中だが同人は現金で百二十圓程を所持してゐると

大瀧江から引水し 二萬人の飲料水

健保組合と共力して 磐炭の衞生施設

石城郡內郷村磐城炭礦宮坑方面における約二萬人に對する飲料水は好間川より分れたる大瀧江筋の水を引き假水道によつて供給されてゐるが設備不完全のため今年の如く雨天續きのため汚濁甚だしくために胃腸病脚氣患者多數を出だすに至つたのでこれが設備改良について豫算一千八百圓を計上し濾過池を作る事になつた磐炭健康保險組合でも保健施設の關係上これが對策につき理事會を開催改良工事費の三分の一六百圓を補助支出することに滿場一致決定來年二月着工の豫定である

四倉沖に漂ふ 怪死体

漁夫体五十男

石城郡四倉沖合を航行中の千葉縣の一漁船が九日四時頃漁夫体の死体を發見したが激浪のため海岸に寄りつけぬので死体をそのまゝ船內に引入て十日午後二時頃塩釜に入港し直に塩釜署に居出でた年齡五十五六歲位の裸體で白木綿の胸卷の中には五十錢銀貨一枚入つたがま口があり顏面に數ケ所の打ばく傷があり水を飮んだ形跡がないので殺害されて海中に投込まれた疑ひ十分あり福島縣下の者ではないかと宮城縣警察部では福島警察部に急報し身許その他を調査中

錦村の高齢者

石城郡錦村の八十歲以上の高齢者は八日の現在にて女二十一、男七の廿八名で九十歲以上は三人である御大典記念に敬老の意を表すべく表彰方目下考究中である

圖々しい怪漢

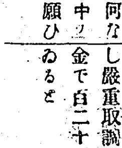
植田署で取調中

植田署では十日拂曉同町を徘徊する無帽に白地浴衣を着し足袋はだしの擧動不審の男を引致取調中であるが右は石城郡山田村當時住所不定無職窃盜前科四犯蛭田幸藏（五〇）と稱するのみで他は口を緘じて語らず留置場でも大胆で寢てゐる仕末に強か者らしく各地に照會餘罪取調中である

町長會議

本郡より出席

飯坂町に八、九、兩日開かれた縣下町長會議に石城郡よりは平、四倉、江名、湯本、勿來、植田、小名濱の各町長並に代理が出席した



◆藝者が月に三度づゝ檢黴を受けることにしたなんて新聞に出たので、置屋組合ではイヤ檢黴ではありませんよ、保健衞生の爲めの健康診斷をすることにしたのです、といつてる◆それはナニも花柳病豫防法が實施になつた爲め始めたのではなく接客業者として當然の必要から、見番が出來る當時からの話が、實現されたので警察の方でも當業者が自發的に施設したのは、大層喜んで居られます、と鼻息がアラクしてた◆尤も月に一回身體の上半身の診斷で、局所的檢査をしないのだそうで、そんなことをされるんなら、アタイ平町でなんぞ藝者はしないから、ヘンこれでも何處へ行つてゞも抱へてくれますからね、なんて氣焔をあげてるのがドッサリ居るそうだから、ヤツパリ女子と小人は養なひ難しかね。